

昭和60年度

業 務 実 績

昭和61年6月

国際協力事業団
東京国際研修センター

JICA LIBRARY



1012605[0]



管 理 棟



宿 泊 棟

はじめに

また暑い夏がやって来た。一年前の開所式の模様が目に浮かぶ。

戦後、我が国が先進国の仲間入りをしてからすでに30有余年、此の間JICA（その前身も含めて）は人造りのために数多くの研修員を受け入れてきた。彼等の滞日中の生活と研修の根拠地としての研修センターも、すでに10指を数えるに至っているが、その中でも、ここ幡ヶ谷の地に在るTICには、ほとんどすべての研修員が、何等かのかたちで一度は足を踏み入れる。来日直後のブリーフィングやオリエンテーションを受けに、また本研修の前の日本語研修を受けに、はたまたこのセンター内の教室で行われるセミナーに出席するために。


昨年まで約20年間に亘って研修員を引き受けてきた旧TICにかわって、我がTICは、心新たに研修員受入れのための諸活動を、此の一年間精力的に実施してきた。歳月は過ぎ去ってしまえば早いものであり、為し得た事もやがては忘れられてしまう。昭和60年度は、TICにとっては文字通り将来の発展のための大事な基礎がための時期であった。こうした時期に我々が手掛けた事業の全体像を、その実績を通してここに記録として止めることは、将来の展望を見出す際のよすがともなり、且つTICの活動と成果を内外に理解していただく一助ともなろう。こうした考えに立って本冊子は編さんされた。

是非お目通しを願いたい。

昭和61年6月吉日

東京国際研修センター

所長 河西 明



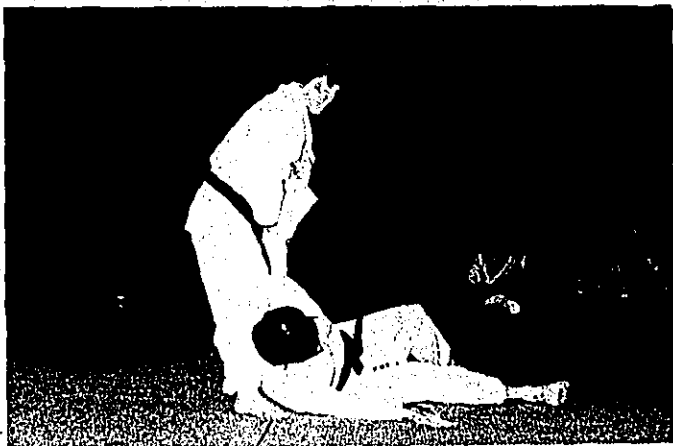
国際協力事業団	
受入 月日	61. 8. 28
	000
	36
登録No.	15303
	TIH



開所式
60年6月26日



旧TICよりの研修員移動
60年7月13日



日本武道観賞会
60年10月11日



西原町会との懇親

60年11月27日



新年パーティー

61年1月10日



ディスコ

61年3月14日

目 次

1. 東京国際研修センターの設立	1
2. 施設の概要	3
○所在地 ○建物規模 ○主要施設	3
3. 組 織	5
4. 開 所 式	6
5. 昭和60年度業務実績	7
(1) プリーフィング	7
(2) オリエンテーション	10
(3) 日本語研修	18
(4) リクリエーション活動	32
(5) 健康管理	38
(6) 施設の管理・運営	43
イ. 宿泊施設の利用	43
<資料> ◦月別利用実績表	43
◦地域別・国別研修員延利用人数実績表	44
◦センター宿泊集団コース一覧表	45
ロ. 教室の利用	46
<資料> ◦月別利用実績表	46
◦セミナー等を実施（1週間以上）した 研修コース一覧表	47
ハ. 建物等の管理委託	48
<資料> ◦部門別委託一覧表	48
(7) 主たる催し	48
イ. 大平洋人造り協力合同検討会	48
ロ. 研修課長会議	48
(8) 主たる便宜供与	49
(9) 昭和60年度収支予算実績	50

1. 東京国際研修センターの設立

政府開発援助の一翼を担う国際協力事業団の業務の拡大と共に、研修員の受入人数も飛躍的に増大する中、東京地区における研修・宿泊施設としての東京インターナショナルセンター（収容人数 275 人）および八王子国際研修センター（収容人数 100 人）の 2 センターのみでは、研修員受入事業の効果的な実施に支障を来すことが予測され、新センターの設立は焦眉の急となっていた。

新センター建設の計画段階における昭和56年度の受入人数は 4,168 人、その内東京地区で 2,500 人（60％）の研修員を収容するには、700 ベッドが必要とされ、可成りの研修員は都内のホテルに分散し宿泊することを余儀なくされていた。

このような状況の下、昭和55年度には新センターの必要性が認められ、土地購入費の一部が予算化された。

ここに、新東京国際研修センターの建設が実現する運びとなり、実に約 5 年の歳月と 80 億円に及ぶ予算をもって、国際協力事業団が全国に設置している国際研修センターの 10 番目のセンターとして、昭和60年 4 月に東京都渋谷区西原 2 丁目 49 番地の交通至便で閑静な場所に東京国際研修センターは設立された。

設立に至る年度別推移は次のとおり。

昭和56 ～ 57年度	土地購入（3,701百万円）
昭和58年 4 月 1 日	建設工事契約締結
昭和58年 6 月 23 日	安全祈願祭
昭和60年 3 月 30 日	竣 工（4,046 百万円）
昭和60年 4 月 5 日	センターの組織発足
昭和60年 6 月 26 日	開 所 式（安倍外務大臣ご列席）
昭和60年 7 月 13 日	研修員の入館開始

センターの実質的な業務は、昭和60年 7 月 13 日に東京インターナショナルセンターに滞在する研修員の引越しをもって開始された。

最新の設備と最大の規模をもつ本センターは、今後、毎年 100 カ国以上 5,000 人に近い研修員のブリーフィング、オリエンテーション、日本語研修および専門分野のセミナー等を実施するための研修施設として、また、これらの研修員が快適な生活をおくるための宿泊施設として、研修員受入事業の実施のための拠点となり、開発

途上諸国の人材の養成という使命を担い国際協力の重責を果たしてゆくことが内外から期待されている。

2. 施設の概要

○所在地

住所 〒151 東京都渋谷区西原2丁目49-5
電話 (03) 485-7051
FAX (03) 485-7904

○建物規模

構造 本館 鉄筋コンクリート造4階建
(管理・研修棟) (5,766㎡)
宿泊棟 鉄骨鉄筋コンクリート造10階建
(12,490㎡)
講堂 鉄筋コンクリート造
(554㎡)

敷地面積 10,013㎡
建築面積 4,027㎡
延床面積 18,868㎡
屋内駐車場 (58㎡)

○主要施設

[本館] (管理・研修棟)

1階 ラウンジ, 食堂, 喫茶コーナー, オーディオルーム(2室),
ビデオルーム(2室), 売店

2階 フロント, ロビー, ブリーフィングルーム, 研修監理員控室,
日本語講師控室, 日本語教材開発室, 会議室(2室)

3階 所長室, 事務室, 応接室(2室), 講師控室, 図書資料室,
セミナールーム(1~7)(16)

4階 オリエンテーションルーム, セミナールーム(8~15)(17~
18)

〔講 堂〕

1階 映写施設付設

〔宿泊棟〕

1～10階 宿泊室（441室，461人収容）

全室バス・トイレ・電話付（内線）

各階に洗濯室

シングル 421室（15.9㎡／1室）

ツイン 20室（31.3㎡／1室）

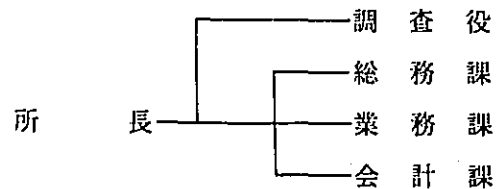
3，5階 タイプ室（3室）

4階 診療室

〔庭 園〕

3. 組 織

1. 組 織 図



2. 事 務 分 掌

- 〔総務課〕 宿泊計画・管理
施設の管理・運営
庶務
- 〔業務課〕 研修員に対するブリーフィング，オリエンテーションおよび日本語研修の実施
研修員の生活上の相談・指導および福利厚生
- 〔会計課〕 収支予算，決算
現金等の出納

※ オリエンテーション，日本語研修および建物等の管理を実施するため，下記の外部組織がセンター内に設置されている。

- 社団法人 国際交流サービス協会オリエンテーション準備室
- 財団法人 国際協力サービスセンター 日本語研修室
- TBSビル管理会社 東京国際研修センター事業所

4. 開 所 式

昭和60年6月26日、当センターの開所式は安倍外務大臣ほかの御出席のもと、総員約300名の参加を得て行なわれた。



5. 昭和60年度業務実績

(1) ブリーフィング

年間4～5,000名を数える研修員の多くは、初めての訪日であり、この点を考慮して、これらの研修員に対して研修プログラムの開始前に研修上、および日常生活上必要な基礎的な知識を与えるため、次のプログラムにより(財)国際協力サービスセンターの協力を得てブリーフィング業務を行なった。



ブリーフィングの実施時間及び順序 (平日)

No.	時間帯	内 容	形 式	所要時間	備 考
1	10:00 a.m.～	登 録	ブリーフィング担当者が指導	15分	①②③
2	10:15 a.m.～	日本生活案内	オート・スライド上映	25分	
3	10:40 a.m.～	質疑応答	2の補足説明	15分	
4	10:55 a.m.～	諸手続説明	ブリーフィング担当者による 口頭説明	40分	④⑤⑥⑦⑧⑨
(昼 食)					
5	1:30 p.m.～	あいさつ	TIC所長	5分	
6	1:35 p.m.～	「Guide to JICA」	オート・スライド上映	25分	
7	2:00 p.m.～	質疑応答	6の補足説明	15分	
(休 憩)				10分	
8	2:25 p.m.～	TIC. Rules Regulations	オート・スライド上映	30分	
9	2:55 p.m.～	質疑応答	8の補足説明	15分	
10	3:10 p.m.～	キャッシュカードによる 滞在費等の引出し	コーディネータ等が銀行にて 指導	30分	⑩

- ※ ① Form of Register の配布, 記入指導及び回収
 ② 旅券有効期限の確認
 ③ 査証有効期限の確認
 ④ 医療カードの配布, 及び使用方法の説明
 ⑤ 受入諸費関連諸手当の内容及び使用上の注意説明
 ⑥ 航空券の預り及び航空代理店への引渡し
 ⑦ 「KENSU - IN HAND BOOK」「Training in Japan」「地図」「simple conversation in Japanese」「研修員バッジ」の配布
 ⑧ 事業団, 受入先, 宿泊先, 在日大師館等の住所, 電話番号, 担当者氏名の伝達
 ⑨ その他研修期間に係る各種注意事項の伝達
 ⑩ クイックカードの配布及び使用方法の説明

(土曜)

No	時間帯	内容	形式	所要時間	備考
1	10:00 a.m.~	登録	ブリーフィング担当者が指導	15分	平日に同じ但しクイックカード 実地指導は次週月曜日に実施
2	10:15 a.m.~	日本生活案内	オート・スライド上映	25分	
3	10:40 a.m.~	質疑応答	2の補足説明	15分	
4	10:55 a.m.~	諸手続説明	ブリーフィング担当者による 口頭説明	40分	
5	11:35 a.m.~	Guide to JICA	オート・スライド上映	25分	
6	12:00 p.m.~	T・I・C Rules & Regulations	オート・スライド上映	30分	
7	12:30 p.m.~	質疑応答	5・6の補足説明	15分	

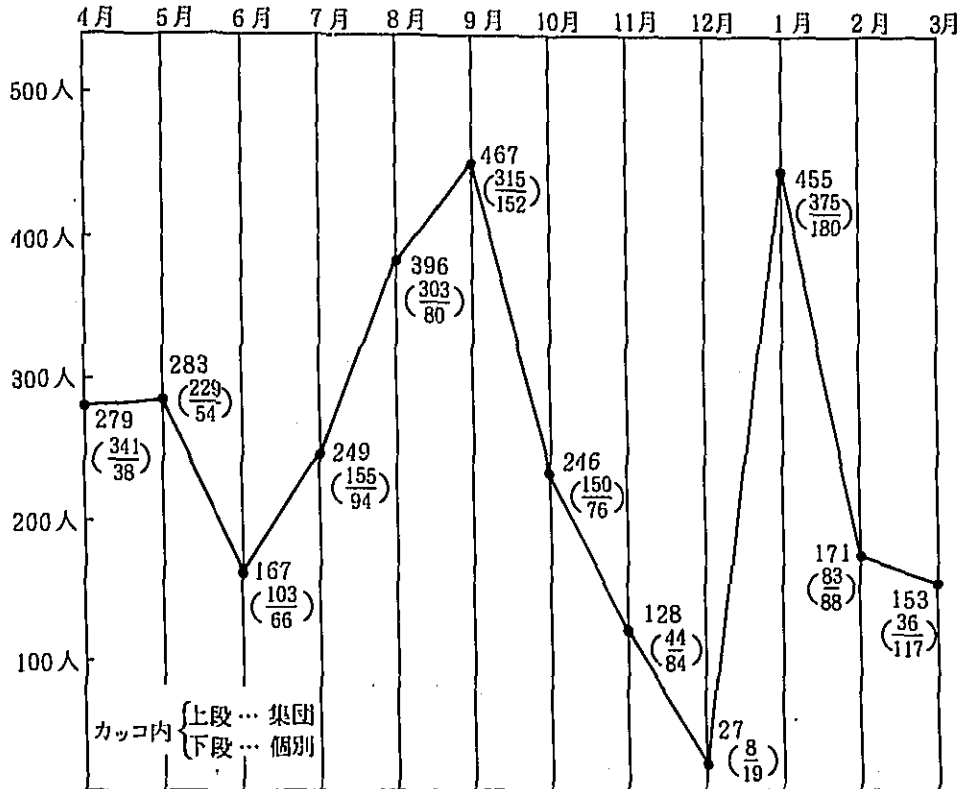
※ 日, 祭日は実施しない。

昭和60年度のブリーフィング受講者は 3,023名に達し, うち集団コース研修員は 1,947名, 個別研修コース研修員は 1,076名であった。

月別の受講者の実績は下記の通りである。

受講者の多い時期は 8, 9, 1月であった。

ブリーフィング受講研修員の人数（実績と推移）



(2) オリエンテーション

ブリーフィングに引き続き研修員に対して、日本事情等について正しい基礎的な知識を与え、研修活動および滞日生活の円滑化を図るとともに、我が国に対する理解を促進させるため、(社)国際交流サービス協会及び(財)国際協力サービスセンターの協力を得てオリエンテーション業務を実施した。

このオリエンテーションは従来1週間を1サイクルとして主に集団研修コースの研修員を対象に実施してきたが、技術研修開始前に日本事情等について理解を深めることは、研修効果をたかめるうえからも大変重要であるとの観点から、よりおおくの研修員（とくに個別研修コース）の参加を可能ならしめるコンパクトなプログラムを策定することとし、この方針に沿って『ブリーフィング及びオリエンテーション改善部会』（座長＝研修第三課長）に於いて検討された。

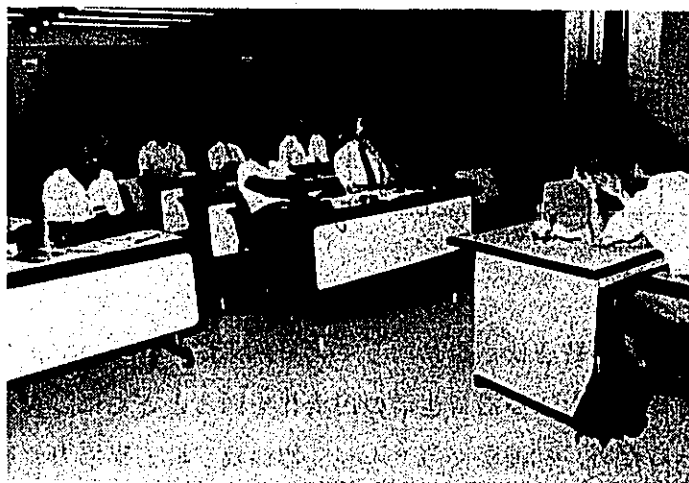
その結果、従来の日常生活に関するプログラムはブリーフィングプログラムに

一括し、1サイクルを3日とし週2回（2サイクル）実施する日本事情紹介を主眼とする短期完結型として10月7日より下記のプログラムに従って実施することとなった。

時間配分は、日本語を除く講義はそれぞれ2時間とし、次の通りである。

関連映画上映（ビデオ版）	0.5 H
講義	1 H
質疑応答	0.5 H

また、従来の『日本の言葉』は廃止し、あらたに実用的な挨拶や自己紹介等の表現を教える『日本語』を1サイクルにつき1日1時間ずつ2日にわたり実施した。



オリエンテーションプログラム

日	時 間	内 容
第1日(月)	10:00~12:00	日本の社会・風土
	13:30~14:30	日本語(I)
	14:45~16:45	日本の歴史・文化
第2日(火)	10:00~12:00	日本の経済
	13:30~14:30	日本語(II)
	14:45~16:45	日本の産業技術発展史
第3日(水)	9:00~13:00	都内見学
第1日(木)	月曜日のプログラムを実施する。	
第2日(金)	火曜日のプログラムを実施する。	
第3日(土)	水曜日のプログラムを実施する。	

※ 各講義内容は資料参照

	日	時 間
生け花紹介	月2回(第1, 3火曜日)	17:15~19:30

当センターが実施した7月29日以降の受講者総数は1,521名(内個別研修員513名)であり、各回別の受講者数は別表の通りである。

オリエンテーションプログラムの各講義内容

<p>「日本の社会・風土」</p> <p>I. 現代日本社会の特徴 ・多忙さ、生産的・能率的な社会 ・情報の集中と都市化</p> <p>II. 戦後の消費パターンの変化 と生活様式の変化 ・平均理想住宅の変化と家族像の変化 ・中流意識 ・生活様式が多様化 ・現代の平均的家庭 ・家計支出</p> <p>III. 教育 ・女性の職場進出 ・まとめ</p> <p>IV. 日本社会の均質性と多様性</p>	<p>「日本の歴史・文化」</p> <p>I. 日本の歴史概観 海外との交渉 海外文化の国風化</p> <p>II. 伝統文化と現代文化 ・日本文化の独自性と変容 ・連続性と不連続性</p> <p>1) 近代化と西洋化の違い 2) 文化の発展/受層 (アジアの一員として)</p>	<p>「日本の経済」</p> <p>I. 戦後の経済発展の諸要因 1) 政府の産業政策 2) 文化・社会の背景と政治的安定性 3) 財政金融と高い貯蓄性 4) 産業の集約化 5) 海外技術の導入</p> <p>6) 教育 7) 貿易関係</p> <p>II. 労務関係 1) 終身雇用 2) 企業内トレーニング 3) 柔構造 4) QC 5) 労働組合</p> <p>III. 現状と展望</p>	<p>「日本の産業技術発展史」</p> <p>I. 明治維新前の技術の蓄積 II. 戦後の産業発展の要因 産業構造の推移 1) 生産構造 2) 就業構造 3) 貿易構造</p> <p>III. 戦後の産業発展の歴史 1) 基礎産業再建 (50年代) 2) 重化学工業の進展 (60年代) 3) 産業構造変化への対応 (70年代) 4) 創造的知識集約化の展開 (80年代)</p> <p>IV. 今後の展望</p>	<p>「日本語 I」</p> <p>1. 日本語の音韻組織 2. 日本語の音韻面における特徴 3. 練習 A</p> <p>(1) 日常の挨拶 (2) 自己紹介 (3) 日本語の教</p>	<p>「日本語 II」</p> <p>1. 練習 B</p>
<p>日本社会の変遷と現状を消費行動を通して分析し生産、消費のメカニズムの中にあるポイントに当たるポイントを探る。 日本人の競争の高さ、正確さ等の特徴 単一民族、単一言語 核家族化、都市化、教育 女性の地位、中流意識、生活様式</p>	<p>日本の歴史を概観し、同時に海外からの文化移入と国風化の過程を追う。 また、天皇制等を例に取り、伝統文化と現代文化との対比等により紹介する。 世界文明の発祥、日本文化のあけぼの、中国、中央アジア、ヨーロッパの影響、文字、建築等中国文化の国風化、文化芸術等の伝統と現代に生きる独自の文化、欧米化と近代化</p>	<p>戦後の日本経済発展の礎となった諸要因を政府の政策、政治、教育、国際環境等に例を取り、わかり易く説明し、併せて、日本の経営風土ともいえる労働関係及び日本経済の最近の動向にもスポットをあてる。また、経済技術協力の現状と今後にも簡単に触れるポイント 主に触れるポイント 民間と政府との関係、文化、社会的背景、産業集約化、海外の技術導入と消化、企業内訓練、QC、労組、教育の果たした役割、海外依存、貿易、経済技術協力</p>	<p>産業発展の要因と歴史及び今後の動向を、具体的な事例を挙げながら国際環境との関連を含めて概説する。 主に触れるポイント 技術の蓄積、海外技術の導入 産業構造の推移、国際環境の変化とその影響 従来型産業と新産業分野 今後の動向</p>	<p>国際協力事業団 発行 「Simple Japanese Conversation」に基づき、日本語の音韻の特徴的な面にふれながら具体的な使用の練習を行う。</p>	<p>日本語使用の中で最も簡単で憶えやすく、また実用的であるとと思われる語い、文型を紹介し、練習を行う。</p>

都内見学ルート 9:00 TIC発 明治神宮 尾崎記念公園 皇居 13:00 TIC着

※ 配付資料

- (1) 講義テキスト
- (2) 各講義レジュメ
- (3) "Statistical Handbook of Japan 1985"
- (4) "Organization of the Government or Japan"
- (5) "Complete Atlas of Japan"
- (6) Japan of Today

昭和60年度オリエンテーション実施表

実施回	実施期間	受講員数	実施対象コース (実数)	備考
第15回	7/29 ~ 8/2 (月) (金)	19 (13)	選鉱精練(6)、インドネシア・生物薬学(2)、パキスタン・放電加工(1)、インドネシア・か物語虫防除(1)、インドネシア・農薬分析(1)、インドネシア・稲病害虫防除(1)、パラグアイ・害虫防除(1)、パラグアイ・土壌(1)、フィリピン・選鉱精練(1)、タイ・モザイク生産(2)、チリ・水産品質管理(1)、韓国・森林経営(1)	
第16回	8/5 ~ 8/9 (月) (金)	41 (13)	デジタル交換機、教育テレビジョン番組(3)、中国・国際農業比較学(1)、インドネシア・食物栄養(1)、中国・油田精練(1)、メキシコ・電子工学(1)、ペルー・電話交換(1)、フィリピン・デジタル交換(1)、インドネシア・番組制作(1)、インドネシア・編集(1)、ケニヤ・機械工学(1)、チリ・うに養殖(1)	
第17回	8/12 ~ 8/16 (月) (金)	29 (8)	都市計画(2)、繊維工学(9)、インドネシア・ウイリス製剤(1)、インドネシア・細菌製剤(1)、インドネシア・薬事行政(1)、インドネシア・実験動物(1)、ビルマ・橋梁建設(1)、ビルマ・橋梁建設及び設計(1)、フィリピン・モザイク加工(1)、フィリピン・竹工芸(1)	
第18回	8/19 ~ 8/23 (月) (金)	86 (9)	インダストリアルデザイン(4)、鉄鋼材試験検査(8)、鉱山の、農業普及(6)、地下水資源開発(1)、電波監視(1)、橋梁工学(3)、稲対策(2)、タイ・森林育成(1)、タイ・森林土壌(1)、タイ・電波監視(1)、ペルー・電波監視(1)、マラウイ・航空保安無線設計保守(4)、ナイジェリア・ファイラリア病(1)	
第19回	8/26 ~ 8/30 (月) (金)	138 (14)	もみ処理精米加工(9)、無線通信技術(8)、精神障害者福祉(8)、貿易実践指導者(1)、空港セミナー(1)、電気事業経営(9)、航空機(8)、国際テレックス通信技術(1)、衛星通信技術上級(9)、消化器病理学(2)、森林産研究(8)、防災技術セミナー(7)、インドネシア・地滑り及び砂防(1)、中国・製剤(1)、中国・モザイク接着(1)、ブラジル・農薬(1)、ウルグアイ・内視鏡診断(3)、タイ・水質汚染管理(1)、ケニヤ・コンクリート(1)、ブラジル・臨床病理学(1)、シンガポール・裕接(1)、インド・衛星通信技術上級(1)、イラン・水質資源開発(1)	
第20回	9/2 ~ 9/6 (月) (金)	78 (15)	工業所有権制度(1)、アイトン・ブ放射医学生物学(2)、化学技術研究者(8)、森林造成技術者(4)、地熱エネルギー(9)、建設施工(1)、韓国・工業所有権制度(1)、ネパール・村落供給計画(1)、インドネシア・食品保存加工(1)、インドネシア・鉱山保安(1)、パナマ・TV機器メンテナンス(1)、タイ・土壌化学分析(1)、ブラジル・鉱山工学防止(2)、ビルマ・縦炭製造(1)、中国・税関税制(1)、ヨルダン・職業訓練(電気・電子)(5)	
第21回	9/9 ~ 9/13 (月) (金)	123 (21)	下水道技術(1)、犯罪防止(2)、海運経営実務(1)、産業医学(2)、税関行政(2)、配電技術(6)、循環器病対策(7)、国家行政(3)、雇用開発(9)、気象学(6)、チリ・下水道技術(1)、フィリピン・下水道施設管理(1)、ペルー・臨床検査機械の操作(1)、タンザニア・船舶教育(1)、中国・微生物遺伝学(2)、フィリピン・産業界(2)、インドネシア・送配電網整備(2)、ケニヤ・工事(1)、ギニア・船外機保守(3)、コロンビア・水力発電(2)、メキシコ・ワクチン製造(1)、メキシコ・ワクチン検定(1)、ナキソコ・ウイリス疾病診断(2)、スリランカ・気象学(1)	

実施回	実施期間	受講研修員数	実施対象コース (実数)	備考
第22回	9/17～9/21 (火)(水)	51 (13)	環境技術(水質保全)⑨、中近東電力④、地震工学⑩、地産工学⑩、輸出入食品検査技術⑥、パラグアイ・稲作①、シンガポール・コンピュータソフトウェア②、フィリピン・バイオテクノロジー①、アルゼンチン・大豆病理②、バンングラデシュ・魚網機材①、タイ・電子顕微鏡による皮膚病研究①、インド・ビデオ装置①、中国・気象データ予報③、ケニヤ・植物組織培養①	9/16(月) 祝日
第23回	9/24～9/28 (火)(土)	61 (13)	腎不全⑩、プラスチック④、一般統計④、ADP(自動データ処理)⑨、ウルグアイ・胸部外科①、ウルグアイ・ブロンコファイブラスコープ①、フィリピン・教育テレビ番組制作①、タイ・農業共同組合⑤、フィリピン・工業電気①、オマーン・水門管理②、タイ・生物学①、チリ・魚労①	9/23(月) 祝日
第24回	9/30～10/4 (月)(水)	76 (42)	貿易振興②、結核対策細菌技術者⑤、労働安全衛生行政⑦、パナマ・職業訓練冷凍空調④、救難防災④、インドネシア・小児看護①、看護教育④、パラグアイ・寄生虫学②、ザンビア・X線技術①、P.N.G.・中小企業振興指導者訓練①、ベルギー・自動車修理①、ブルネイ・植物保存加工(貯蔵)①、微生物育種①、エジプト・海水淡水化④、ブラジル・品質管理①、ケニヤ・農産加工①、ケニヤ・都市住宅①、ハイウェイセミナー⑩、選考精練①	
第25回 (A)	10/7～10/9 (月)(水)	64 (6)	観光振興セミナー⑩、港際排水⑩、港湾セミナー⑩、船員教育行政⑦、ブラジル・中小企業開発④、フィリピン・貝類の微生物学①、フィリピン・貝の浄化①	
第25回 (B)	10/9～10/12 (水)(土)	15 (2)	鉄道電化⑧、開発エコノミスト⑤、フィリピン・人工衛生技術①、インドネシア・森林保護①	10/10(木) 祝日
第26回 (A)	10/14～10/16 (月)(水)	22 (2)	総合都市交通施設計画①、婦人関係行政セミナー⑨、タイ・首都圏道路改良①、トルコ・獣医学①	
第26回 (B)	10/17～10/19 (木)(土)	24 (12)	通信網計画設計②、象牙海岸・内視鏡診断①、イラン・結核対策①、フィリピン・土木工学①、フィリピン・コンピュータシステム①、フィリピン・機器工学①、フィリピン・地形図作成①、パラグアイ・写真製版及びオフセット印刷①、韓国・電子①、インドネシア・科学①、メキシコ・衛生通信①、中央アフリカ・道路②	
第27回 (A)	10/21～10/23 (月)(水)	19 (3)	借款手続セミナー⑩、フィリピン・車検及び車両整備①、ペルー・食用きのこ栽培技術①、スリランカ・非破壊検査①	
第27回 (B)	10/24～10/26 (木)(土)	22 (3)	国土開発セミナー⑩、土質及び基礎工学⑨、ブラジル・農業用化学機器使用技術①、インドネシア・醱酵技術の開発①、シンガポール・TV技術①	
第28回 (A)	10/28～10/30 (月)(水)	32 (19)	住宅建設③、ホンコン・政庁高級公務員研修①、ブルネイ・大型車両整備②、ザンビア・獣医学事情視察①、ケニヤ・資源開発協力基礎調査①、インドネシア・水産①、インドネシア・製鉄所建設計画③	

実施回	実施期間	受講研修員数	実施対象コース (実数)	備考
第28回 (B)	10/31 ~ 11/2 (木) (土)	10 (10)	中国・統計調査②、インドネシア・化学工業①、タイ・免疫学①、象牙海岸・内視鏡補修管理①、フィリピン・養殖①、ブルネイ・建設機械整備③、スワージーランド・電気通信①	
第29回 (A)	11/5 ~ 11/7 (火) (木)	27 (8)	データ通信①、海洋物理調査⑧、メキシコ・エネルギー部門研修⑦、エジプト・船舶ディーゼルエンジン保守及び操作①	11/4 (月) 祝
第29回 (B)	11/7 ~ 11/9 (木) (土)	9 (9)	国際協力活動紹介③、フィリピン・森林保護①、タイ・農業開発研究計画②、韓国・水稲組織培養技術①、スリランカ・作物保険②	
第30回 (A)	11/18 ~ 11/20 (月) (水)	10 (10)	インドネシア・灌漑排水①、フィリピン・水力発電①、ペルー・地形図作成①、ペルー・地形図作成(編集)①、パルバドス・自動車技術①、ボリヴィア・経済地質学②、インドネシア・ロボティクス①、タイ・ロボティクス①、モルデティア・漁業事情視察①	
第31回 (A)	11/25 ~ 11/27 (月) (水)	15 (8)	海老増殖技術⑦、イラン・電気通信システム改良維持②、インドネシア・鋳物業界事情視察③、フィリピン・地形図① 12/3、ビテオのみ ポリヴィア・病院運営①、インドネシア・石炭ガス化①	
第32回 (A)	12/9 ~ 12/11 (月) (水)	12 (5)	医療放射線技術⑦、ケニヤ・電気(職業訓練)①、ケニヤ・ラジオ、テレビ電子①、ガーナ・寄生虫学①、タイ・水道設備の管理②	
第33回 (A)	1/13 ~ 1/16 (月) (木)	85 (12)	早期胃癌診断⑦、認証検査制度⑩、造船経営管理⑩、建築技術④、ガラス工学⑩、中小企業対策⑩、中国・銅石技術①、ユゴスラビア・重金属による水質保全①、ザンビア・小児麻酔①、フィリピン・地形図作成①、インドネシア・水力発電①、アルゼンティン・石油精製触媒作用①、ブラジル・触媒化学①、フィリピン・(ニチア)オートメーション①、胃癌対策①、行政情報システム③	1/15 (水) 祝
第33回 (B)	1/16 ~ 1/18 (木) (土)	82 (43)	国際電話交換技術⑨、国際データ通信技術⑩、鉄道信号⑦、農業利用⑧、水産食品加工⑤、タイ・森林管理計画①、小児医療⑤、インドネシア・技能検定①、コンテナ埠頭整備計画⑨、マレーシア・監督者訓練④、行政情報システム⑦、ガンビア・冷凍機械①、インドネシア・溶接⑥、ザイール・車両整備②、マレーシア・家畜病研究①、インドネシア・港灣整備計画②、インドネシア・港灣②、マレーシア・東方正策経営幹部実務者②、フィリピン・免疫学①、バンングラデシュ・消化器内視鏡①	
第34回 (A)	1/20 ~ 1/22 (月) (水)	43 (14)	教育テレビジョン番組⑦、テレビジョン放送技術⑩、環境行政⑩、韓国・国会議事堂運営①、フィジー・魚加工マーケティング①、エジプト・天文学①、タイ・造林研究訓練①、インドネシア・林業①、熱帯医学研究④、消化器超音波診断⑤	
第34回 (B)	1/23 ~ 1/25 (木) (土)	68 (35)	沿岸漁業普及⑩⑧、養殖一般⑨、原子力基礎実験⑩、機械技術②、環境行政、農業普及②、小型漁船船体横断面保守⑥、シンガポール・生涯性工場②、自動車技術行政⑤、中国・鶏の飼養管理及び環境調査①、チリ・ベレレットマシニング①、中国・化学技術④	

実施回	実施期間	受講員数	実施対象コース (実数)	備考
第35回 (A)	1/27 ~ 1/29 (月) (水)	14 (7)	石油化学工業(7)、研究開発(6)、生物化学薬品新技術(1)	
第35回 (B)	1/30 ~ 2/1 (木) (土)	27 (13)	包装技術(4)、チュニジア・地形図作成(1)、ヴェネズエラ・胃癌診断(1)、ベルギー・精神衛生視覚教育(1)、マレーシア・空港管理(1)、インドネシア・病理学(1)、ネパール・臨床病理学(1)、タイ・機材保守(1)、パラグアイ・農業機械化(1)、ブラグアイ・教育テレビ番組(1)、中国・水稲気象災害(1)、スリランカ・金風加工(3)	
第36回 (A)	2/3 ~ 2/5 (月) (水)	24 (8)	犯罪防止上級(4)、マレーシア・東方正策中堅幹部人事管理(3)、チリ・家畜繁殖内分泌学(1)、バンングラデシュ・循環器病対策(3)、ベルギー・資源開発協力基礎調査(1)	
第36回 (B)	2/6 ~ 2/8 (木) (土)	10 (10)	フィリピン・活性炭工業振興計画(2)、中国・港湾設計施行管理(1)、エジプト・放射線化学基礎(7)	
第37回 (A)	2/10 ~ 2/13 (月) (木)	50 (1)	野菜生産性(1)、野菜採取(9)、稲作 (専修) (6)、灌漑排水(10)、稲作機械化(7)、水管理(6)、ベルギー・鉱山公害防止、環境技術(1)	2/11 (火) 祝日
第37回 (B)	2/13 ~ 2/15 (木) (土)	17 (17)	ブラジル・港湾研究(1)、ベルギー・地下水調査 (井戸ポンプ場) (1)、都市整備(10)、ハイティ・結核対策(1)、ウルグアイ・臨床検査(1)、ガーナ・医療設備(1)、ドミニカ・配電管理(1)、タンザニア・窯業開発(1)	
第38回 (A)	2/17 ~ 2/19 (月) (水)	6 (6)	ケニヤ・寄生虫学(1)、インドネシア・道路管理(1)、ケニヤ・ビール学(1)、メキシコ・農業事情視察(2)、ケニヤ・細菌学(1)	2/11 (火) 祝日
第38回 (B)	2/20 ~ 2/22 (木) (土)	7 (7)	インドネシア・灌漑計画(2)、マレーシア・地域総合開発(1)、イラク・ファクシミリ(2)、マリ・農業開発計画(2)	
第39回 (A)	3/3 ~ 3/5 (月) (水)	13 (5)	鉱山保安(8)、臨床血液学(1)、コロンビア・技術研究計画(1)、中国・調整地質と二枚貝(1)、コロンビア・技術協力(1)	
第39回 (B)	3/6 ~ 3/8 (木) (土)	5 (5)	パキスタン・建設機械技術訓練(3)、カメルーン・農業開発(1)、ブラジル・家畜学(1)	
第40回 (A)	3/10 ~ 3/12 (月) (水)	25 (10)	農業機械設計(7)、稲作一般(8)、エジプト・農業機械整備(1)、インドネシア・公共技術及び公報技術機械(5)、インドネシア・薬品品質管理(1)、アルゼンティン・養殖(2)、中国・コンヒューター(1)	
第40回 (B)	3/13 ~ 3/15 (木) (土)	15 (15)	消化器内視鏡(4)、ビルマ・橋梁技術(3)、コロンビア・水力発電(1)、エジプト・経済計画(1)、ベルギー・天体物理学におけるソフトウェア(1)、フィリピン・海老 化所システム(1)、パラグアイ・雑草学(1)、	

実施回	実施期間	受講研修員数	実施対象コース (実数)	備考
			タイ・モザイク生産技術②、メキシコ・コンピューター採用デジタル通信①	
第41回 (A)	3/24～ (月) 3/26 (水)	8 (8)	イラク・コンピューター③、ソマリア・医療整備の修繕①、ホンデュラス・農林総合開発事務所視察① インドネシア・ローコスト③	
第41回 (B)	3/27～ (木) 3/29 (土)	39 (39)	ビルマ・米油脂の分析法②、ビルマ・米油脂の精製②、ビルマ・食物栄養①、タイ・農業普及①、 タイ・バルテリアに関する組織培養①、タイ・理科教育①、タイ・ラジオアイソトープ①、フィリピ ン・畑作物①、ブラジル・林業研究①、マレーシア・林産研究協力計画①、インドネシア・森林保護 ②、インドネシア・地域保険①、インドネシア・森林造成①、エジプト・神経生理学①、メキシコ・ 腎臓学①、メキシコ・環境調査(科学)①、メキシコ・都市計画①、メキシコ・水産養殖①、メキシ コ・土木工学①、メキシコ・建築技術①、ザンビア・警察訓練①、メキシコ・電子回路制御システム①、日 コ・情報システム②、メキシコ・電気通信①、メキシコ・海運経営① タイ	
研修員合計人数		1521 (513)	()内数字は特設を含む個別コース研修員数	

生け花紹介

第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	合計
8月27日	9月10日	10月8日	10月22日	11月5日	11月26日	12月10日	1月8日	1月22日	2月5日	2月26日	3月11日	3月25日	337
45人	41人	27人	24人	26人	15人	15人	27人	24人	26人	15人	37人	15人	

(3) 日本語研修

イ 特 徴

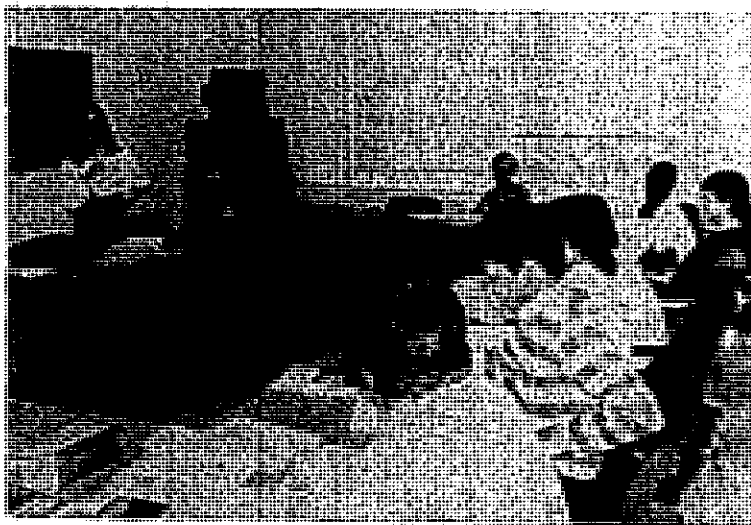
TICが(財)国際協力サービスセンターの協力により行なっている日本語研修の目的は、第1義的には技術研修の効果的な遂行に役立たせることにあり、その内容は他の機関が行なっている日本語教育とは異なっている。

一般的にJICAの研修の滞在期間は3～4ヶ月程度であり、したがって、日本語研修期間も1～2ヶ月が大部分で極めて短い期間に集中している。

教授法は直接法により会話を中心に指導しているが、文字については研修期間が1ヶ月(100時間)を超える場合には最初からひらがなを導入している。研修期間1ヶ月以内の場合にはローマ字を使用している。

なおテキスト及び主要教材は、JICAの研修員のために開発されており、主として、これらのものを使用して指導にあたっている。

また、受講する研修員の日本語研修についての背景や内容が非常に異っている。つまり、日本語学習の経験の有無(最近、既習してくる研修員が目立っている)、母語の相違、技術研修期間の長短、研修内容の相違、日本語の必要性の度合いの相違等、様々な難しい条件があり、それらの多様性に適切に対応して効果的な研修を実施していくことが肝要である。



ロ 実施形態

TICの日本語研修は、集中講習と一般講習とに区分して実施している。

(i) 集中講習

集中講習は、研修員の研修活動における言語的支障をできるだけ軽減し、研修員と研修指導者等との間のコミュニケーションを円滑にし、研修効果を高めることを目的として実施する。それぞれの専門分野の研修開始前に一定期間実施し、研修プログラムの一環として、行なうためその受講が義務づけられている。研修期間は要求される日本語運用能力の程度等に応じて決まり、大體、1ヶ月程度、2ヶ月～3ヶ月、6ヶ月前後、まれに1年に分けられる。

研修期間は、通常月曜日から金曜日まで毎日5時間（午前9：30～12：00、午後1：30～4：00まで）となっている。また、学習効果を考慮し、レベルチェックをしながら、10人前後のクラス編成を標準に実施している。

集中講習の受講者数は、受入研修員数の着実な増大とあいまって、増加しており、特に個別研修コースの地方分散に伴う日本語研修の必要性が高まっていることもあり、今後とも増加する傾向にある。

(ii) 一般講習

一般講習は、技術研修の課外活動の一つとして研修員の自由参加により実施しており、日常生活（外出、買物等）及び日本人との交流を円滑にし、日本文化・習慣の理解を促進することを目的としている。

研修期間は、原則として2ヶ月間でクラスはレベルに応じて予じめ初級、中級、上級に分けられている。

授業は通常月曜日から木曜日まで毎日1時間半（午後6：30～8：00時まで）行っている。

一般講習の場合は、自由参加であるため、講習が進むにしたがって漸減していく傾向にあるが、出席率が終了時50%以上に達した研修員に対しては、参加証書を授与している。

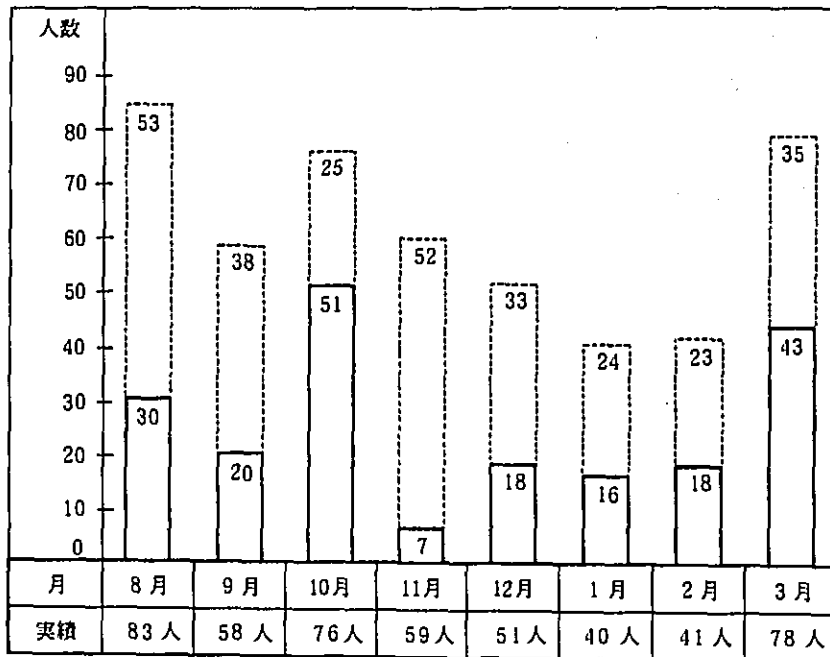
ハ 実 績

昭和60年度、8月から実施した実績は次表のとおりである。

（詳細については別添資料参照）

(a) 集中講習

月別受講者数



※ 実線で囲まれた部分は新規受入の受講研修員数（203人）を示す。
点線で囲まれた部分は継続して受講している研修員数（283人）を示す。

受入形態別日本語研修コース数及び人数

受入形態	集 団		個 別				合 計
	集 団	日 墨	C・P	単 発	国 際	G・G	
コース数	5	0	57	18	1	1	82
人 数	43	0	114	43	1	2	203

日本語研修時間数別分類

時 間 数	0H → 100H	101H → 200H	201H → 300H	301H → 400H	401H → 500H	501H → 1200H	計
研修コース数 (パーセント)	34 (41)	27 (33)	13 (16)	5 (6)	0 (0)	3 (4)	82 (100)
人 数 (パーセント)	83 (41)	71 (35)	34 (17)	11 (5)	0 (0)	4 (2)	203 (100)

(b) 一般講習

レベル別登録者数

レ ベ ル	初 級	中 級	上 級	合 計
クラス数	16 (3)	4	2	22 (3)
登録者数	485 (95)	85	34	604 (95)

()内は旧TICからの継続分

日本語集中講習

実施一覽表

昭和60年8月1日～昭和61年3月31日

コース番号	コースの種類	研修コース			日本語研修			研修期間	備考
		名	国	人数	日本語講習期間	日本語講習回数			
1	個・CP	職業訓練(電子・機械)	セネガル	2	59.12/3～60.11/1	320	59.11/21～61.5/31		
2	個・CP	冢番衛生	パラグアイ	1	60.6/3～60.8/2	10	60.5/23～61.5/23		
3	集団	結核対策	ネパールほか17ヶ国	21	60.6/10～60.8/9	7	60.6/6～60.10/14		
4	個・CP	動物医薬品検定	インドネシア	4	60.8/17～60.8/9	35	60.6/12～61.2/26		
5	個・CP	職業訓練(電気・電子・機械)	セネガル	4	60.6/24～61.5/23	805	60.6/13～61.12/21		
6	個・CP	寄生虫学	パラグアイ	1	60.6/24～60.8/30	110	60.6/20～61.9/3		
7	個・CP	職業訓練	ペルー	2	60.7/1～60.9/27	200	60.6/20～61.3/19		
8	個・CP	大豆栽培	インドネシア	1	60.7/3～60.8/2	10	60.7/1～61.2/12		
9	個・CP	鉱山災害防止	韓国	3	60.7/15～60.8/16	60	60.7/11～60.10/9		
10	個・CP	水産養殖	アラブ首長国連邦	1	60.7/15～60.8/16	60	60.7/11～60.10/8		
11	個・CP	臨床検査	パラグアイ	2	60.7/15～60.8/16	60	60.7/9～61.7/3		
12	個・CP	眼科医療機器	ネパール	1	60.7/15～60.8/16	60	60.7/9～61.2/22		
13	個・CP	整形外科看護	ネパール	1	60.7/15～60.8/16	60	60.7/9～61.6/24		
14	個・CP	家畜栄養	パラグアイ	1	60.7/15～60.8/16	60	60.7/11～61.2/20		
15	個・CP	職業訓練(電子)	パナマ	1	60.7/15～60.9/20	180	60.7/11～61.3/31		
16	個・CP	日型技術教育センター	メキシコ	5	60.7/15～60.8/2	180	60.7/11～60.12/24		
17	個・CP	環境調査とかけ養殖	フィリピン	2	60.7/22～60.8/2	10	60.7/18～60.10/3		
18	集団	選鉱製錬	ザンビアほか6ヶ国	7	60.8/5～60.10/4	215	60.7/25～61.8/15		
19	個・CP	ケニア工農工大機械技術	ケニア	1	60.8/5～60.10/4	215	60.8/1～61.7/5		
20	個・CP	テレビ・ラジオ技術	ケニア	1	60.8/5～60.10/4	215	60.8/1～61.10/4		
21	個・CP	日・シ技術学院	シンガポール	3	60.8/5～60.9/27	190	60.8/1～61.3/20		
22	個・CP	毒物学・生物学	インドネシア	2	60.8/5～60.8/30	100	60.7/24～61.2/27		
23	個・CP	木材生産技術訓練	タイ	2	60.8/5～60.8/30	100	60.7/25～60.11/22		
24	個・CP	水産物品質管理	チリ	1	60.8/5～60.8/16	50	60.7/26～60.11/13		
25	個・CP	車両整備	ルワンダ	1	60.8/5～60.8/23	75	60.7/31～60.11/6		
26	個・CP	家畜衛生	タイ	1	60.8/12～60.11/18	235	60.8/8～61.8/7		
27	個・単	補装具製作技術	インドネシアほか3ヶ国	4	60.8/12～60.9/6	100	60.8/1～60.12/21		

コース 番号	コースの 種類	研 修 コ ー ス			日 本 語 研 修		研 修 期 間	備 考
		コ ー ス 名	国	名 数	日 本 語 講 習 期 間	日 本 語 時 間 数		
28	個・CP	ビール工学	タイ	1	60.8/8~61.5/15	145		
29	個・CP	農業普及関係協力カウンターパート合同	タイほか5ヶ国	6	60.8/15~60.12/14	115		
30	個・CP	水産資源開発	イラン	1	60.8/26~61.2/10	115		
31	個・CP	木材総合利用研究	中国	1	60.8/22~61.8/22	90		
	"	"	中国	1	"	"		
	"	"	中国	1	"	"		
32	個・CP	ジョモケニアアッタ農工大建築技術	ケニア	1	60.8/23~61.4/2	115		
33	個・CP	溶接	シンガポール	1	60.8/22~61.4/24	100		
34	集 団	精神薄弱福祉	マレーシアほか7ヶ国	8	60.8/22~61.3/4	90		
35	個・CP	臨床検査機械の操作	ペルー	1	60.9/4~61.5/2	180		
36	個・単	船外機保守	ギニア	3	60.9/5~61.3/4	150		
37	個・CP	ジョモケニアアッタ農工大資源・公衆衛生	ケニア	1	60.9/5~61.10/4	110		
38	個・国際	森林調査・計画	中国	1	60.9/12~61.2/8	150		
39	集 団	犯罪防止	バンダラデシユほか14ヶ国	15	60.9/5~60.12/9	19.5	(航外)	
40	個・CP	ジョモケニアアッタ農工大都市住宅計画	ケニア	1	60.9/30~61.11/1	190		
41	個・CP	ジョモケニアアッタ農工大農産加工	ケニア	1	60.9/30~61.4/29	140		
42	個・単	寄生虫学	パラグアイ	1	60.9/26~61.9/25	115		
43	個・CP	漏水防止	タイ	1	60.10/3~60.12/24	95		
44	集 団	結核対策和函技術指導者	パキスタンほか5ヶ国	6	60.9/26~61.2/17	70		
45	個・CP	看護教育	タイほか2ヶ国	5	60.9/26~61.9/10	315		
46	個・CP	職業訓練	ペルー	1	60.9/26~61.7/4	290		
47	個・CP	職業訓練	パナマ	4	60.9/26~61.7/4	290		
48	個・単	研究開発技術及び個別化学	インドネシアほか2ヶ国	10	60.1/24~61.1/28	12	(航外)	
49	個・CP	写真製版	パラグアイ	1	60.10/14~61.10/15	535		
50	個・単	獣医学	トルコ	1	60.9/26~61.11/28	145		
51	個・CP	フィリピン工大総合訓練センター	フィリピン	3	60.10/14~61.9/30	245		
52	個・CP	免疫化学	フィリピン	1	60.10/18~61.10/15	95		
53	個・CP	化学工業	インドネシア	1	60.10/30~61.3/30	120		
54	個・単	人造り協力大型車両整備	ブルネイ	2	60.10/24~60.12/21	45		
55	個・単	特許審査	中国	2	60.10/29~61.7/31	290		

コース番号	コースの種類	研修コース名		ス		日本語研修		研修期間	備考	
		コ	ス	国	名	人数	日本語講習期間			日本語時間数
56	個・単	ポーリング技術		ルワンダ		2	60.11/18~61.3/14	390	60.11/6~61.9/16	
57	集	エビ増養殖技術		メキシコほか6ヶ国		7	60.12/2~61.1/29	185	60.11/21~61.8/29	
58	個・CP	魚類生理		タイ		1	60.12/2~60.12/27	100	60.11/28~61.3/30	
59	個・CP	水道設備の管理		タイ		2	60.12/16~61.1/17	95	60.12/10~61.3/11	
60	個・CP	寄生虫学及び医学昆虫学		ガーナ		1	60.12/16~61.1/17	95	60.12/5~61.12/4	
61	個・CP	ジョモケニエッタ農工大電気工学		ケニア		2	60.12/16~60.12/27	50	60.12/5~61.12/22	
62	個・CP	職業訓練		インドネシア		1	60.12/18~60.12/27	40	60.6/20~61.5/31	
				マレーシア		1	"	"	60.6/20~61.6/30	
				シンガポールほか1ヶ国		2	"	"	60.6/20~61.3/31	
				ブラジル		1	"	"	60.6/20~61.4/26	
63	個・CP	技能検定		インドネシア		1	61.1/20~61.8/1	245	61.1/13~61.10/8	
64	個・CP	職業訓練		インドネシア		6	61.1/20~61.4/4	245	61.1/13~61.7/2	
65	個・CP	職業訓練指導員上級技能訓練センター		マレーシア		4	61.1/20~61.4/4	245	61.1/17~61.9/29	
66	個・CP	小児看護と伝染病管理		フィリピン		1	61.1/20~61.4/25	245	61.1/17~61.12/17	
67	個・単	消化器内視鏡		パングラテシュ		1	61.1/20~61.3/28	245	61.1/13~61.12/24	
68	個・CP	冷凍機械		ガンビア		1	61.1/20~61.2/14	95	61.1/15~61.4/16	
69	個・単	V.L.B.Iシステム及び設備		中国		1	61.1/20~61.2/14	95	61.1/16~62.2/18	
70	個・単	車輛整備		ザイール		1	61.1/20~61.2/14	95	61.1/13~61.3/21	
71	個・単	研究開発技術		ブラジルほか4ヶ国		7	61.2/3~61.3/31	195	61.1/23~62.1/27	
72	個・CP	消化器病		ビルマ		3	61.2/3~61.3/28	190	61.1/27~61.12/25	
73	個・CP	農業機械化		パラグアイ		1	61.2/3~61.3/28	190	61.1/28~61.8/23	
74	個・CP	病理学		インドネシア		1	61.2/3~61.2/28	95	61.1/28~61.9/3	
75	個・CP	臨床病理学		ネパール		1	61.2/3~61.2/28	95	61.1/27~61.7/24	
76	個・単	水稲気象災害		中国		1	61.2/3~61.2/27	90	61.1/28~61.12/25	
77	個・CP	医療設備		ガーナ		1	61.2/17~61.4/4	150	61.2/12~61.8/13	
78	個・GG	日本語		タイ		2	61.2/17~61.5/16	150	61.2/17~61.5/16	
79	個・CP	稲作		フィリピン		1	61.2/24~61.3/7	50	61.2/21~61.10/1	
80	個・CP	中日友好病院		中国		10	61.3/3~61.4/4	100	61.2/27~61.8/31	
81	個・CP	中日友好病院		中国		10	61.3/3~61.4/4	100	61.2/27~61.8/31	
82	個・CP	経営管理		中国		1	61.3/3~61.3/28	95	61.2/27~62.3/15	

コース番号	コースの種類	研 修 コ ー ス			人 数	日 本 語 研 修		研 修 期 間	備 考
		コ ー ス 名	国 名	名		日本語講習期間	日本語時間数		
83	個・CP	浮魚のすり身加工技術	中 国		1	61. 3/ 3 ~ 61. 3/28	95	61. 2/27~61. 8/26	
84	個・単	道路建設機械	中央アフリカ		2	61. 3/ 3 ~ 61. 8/15	100	61. 2/26~61.12/10	
85	個・単	コンピュータ事務機器における計算機応用	中 国		1	61. 3/ 3 ~ 61. 3/31	100	61. 2/24~61.10/ 7	
86	個・CP	ジョモケニア工大・農業経済学	ケニア		1	61. 3/ 3 ~ 61. 4/ 4	100	61. 2/27~61.10/ 3	
87	個・単	定置網漁法	ガーナ		2	61. 3/17 ~ 61. 4/18	50	61. 3/10~61. 9/17	
88	個・CP	園芸開発計画	ネパール		1	61. 3/17 ~ 61. 4/11	50	61. 3/11~61. 7/ 1	
89	個・CP	稲作機械化	ケニア		1	61. 3/17 ~ 61. 4/11	50	61. 3/11~61. 7/ 8	
90	個・CP	農産品質管理	インドネシア		1	61. 3/17 ~ 61. 4/11	50	61. 3/ 6~61.10/15	
91	個・単	コンピュータ事務機器における計算機応用	中 国		1	61. 3/17 ~ 61. 3/31	50	61. 3/ 9~61.10/ 7	
92	個・単	人工魚礁	韓 国		1	61. 3/17 ~ 61. 4/10	50	61. 3/12~61. 9/12	
93	個・CP	職業訓練	タ イ		1	61. 3/17 ~ 61. 6/13	50	61. 3/13~61. 9/15	
94	個・CP	化学工業	インドネシア		2	61. 3/17 ~ 61. 5/16	50	61. 3/14~61. 9/22	
95	個・CP	醸造技術	タンザニア		1	61. 3/17 ~ 61. 5/16	50	61. 3/10~61. 9/14	
96	個・CP	育苗・木材組織・性質	パラグアイ		3	61. 3/17 ~ 71. 5/ 9	50	61. 3/ 9~61. 9/ 2	
97	個・CP	とうもろこし栽培	パラグアイ		1	61. 3/17 ~ 61. 4/25	50	61. 3/11~61.12/21	
98	個・CP	種子生産	パラグアイ		1	61. 3/17 ~ 61. 4/25	50	61. 3/11~61.12/21	
99	個・CP	木材生産技術	タ イ		1	61. 3/17 ~ 61. 4/25	50	61. 3/11~61. 7/ 1	
合 計					203		10871.5		
99				(53)			(2,227)		

() 内の数字は旧TIC(市ヶ谷)からの継続分を示す外数である。

(2) 地域及び国別分布状況

地域別分布

地 域	国 数	%	人 数	%
ア ジ ア	15	38.5	144	70.9
ア フ リ カ	11	28.2	29	14.3
中 南 米	9	23.1	25	12.3
大 洋 州	2	5.1	3	1.5
中 近 東	2	5.1	2	1.0
(合 計)	39	100	203	100

国別分布

アジア (15ヶ国 144人)

国 名	人 数	国 名	人 数
中 国	37	韓 国	4
インドネシア	29	ブルネイ	2
タイ	26	バングラデシュ	2
フィリピン	14	パキスタン	2
シンガポール	7	ホンコン	1
マレーシア	7	インド	1
ビルマ	7	スリランカ	1
ネパール	4		

中近東 (2ヶ国 2人)

国 名	人 数	国 名	人 数
イ ラ ン	1	ト ル コ	1

アフリカ (11ヶ国 29人)

国名	人数	国名	人数
ケニア	10	ガンビア	1
ガーナ	4	ザイール	1
ルワンダ	3	タンザニア	1
ギニア	3	エジプト	1
中央アフリカ	2	モロッコ	1
ガンビア	2		

中南米 (9ヶ国 25人)

国名	人数	国名	人数
パラグアイ	9	コロンビア	1
パナマ	5	ポリビア	1
チリ	4	バハマ	1
ブラジル	2	メキシコ	1
ペルー	1		

大洋州 (2ヶ国 3人)

国名	人数	国名	人数
フィジー	2	パプア・ニューギニア	1

日本語能力到達目標別分類

到達目標段階	I/A	II/B	III/C	IV/D	計
研修コース数 (パーセント)	49 (58)	22 (26)	8 (10)	5 (6)	82(+2) (100)
人 数 (パーセント)	121 (59.6)	36 (17.7)	36 (17.7)	10 (5)	203 (100)

*は到達目標(A・B・D)に分かれる。

注) 到達目標の段階と内容

I/A：挨拶・通勤・食事等生活の基本的な場での日本語による日常会話ができる。

II/B：現場実習の場での必要な日本語の指示が理解できる。

III/C：現場実習の場での日本語による質疑応答ができる。

IV/D：日本語による講義が理解できる。

日本語一般講習

1 実施一覧表

昭和60年8月1日～昭和61年3月31日

レベル	コース番号	講習期間	時間数	参加状況 (50%以上の出席者には参加証書を授与)			備考
				A:登録者数	B:参加者数	C:50%以上出席者数	
初級	1	60.6.17~60.8.9	75H	18名	15名	8名	旧TICからの継続分
	2	7.1~8.29	25.5	47	43	8	継続分, 8/22終了予定を8/29に延長, 6H増
	3	7.15~9.5	31.5	30	27	11	継続分
	4	8.5~10.1	48	56	55	18	
	5	8.19~10.16	48	30	28	14	
	6	9.2~10.30	48	62	57	18	
	7	9.17~11.14	48	61	61	8	
	8	10.7~12.3	46.5	33	32	15	
	9	10.21~12.16	45.	45	45	19	
	10	11.5~12.27	46.5	25	21	7	
	11	11.18~61.1.20	48.	9	7	1	
	12	12.2~2.3	46.5	9	9	3	
	13	12.16~2.18	48.	4	3	3	
	14	61.1.6~3.4	46.5	8	8	7	
	15	1.20~3.17	46.5	78	78	25	
	16	2.3~3.31	43.5	39	35	6	
	17	2.17~3.31	37.5	8	8	1	研修員帰国の為4/10の予定を3/31で終了
	18	3.3~3.31	25.5	2	2	0	4/24
	19	3.17~5.13	13.5	16	14	61年度へ継続
(小計) 19		685.5	485	463			
(3)		(64.5)	(95)	(85)			
中級	1	60.8.5~60.10.1	48	30	30	4	13.3
	2	10.7~12.3	48	10	10	3	30.0
	3	12.2~61.2.3	48	28	28	11	39.3
	4	61.2.3~3.31	45	17	16	6	35.3
(小計) 4		189	85	84	24	28.2	
上級	1	60.10.7~60.12.3	46.5	14	14	2	14.3
	2	61.2.3~61.3.31	48	20	20	9	45.0
(小計) 2		94.5	34	34	11	32.4	
合計	22		604	581			
(3)		(64.5)	(95)	(85)			
総計	25		699	666			

() 内は、旧TICからの継続分以外数である。

(2) 各レベル別クラス設定表

レベル	クラス号	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
初級	1	8								1日TICからの継続分
"	2	29								"
"	3	5								"
"	4	5	1							
"	5	19	16							
"	6	2	30							
"	7	17	14							
"	8		7	3						
"	9		21	16						
"	10			5	27					
"	11			18	20					
"	12				2	3				
"	13				16	18				
"	14					6	4			
"	15					20	17			
"	16						3	31		
"	17						17	31	研修員帰国のため 3/31にて終了	
"	18							3	31	
"	19							17	(5/13) 61年度へ継続	
中級	1	5	1							
"	2			7	3					
"	3				2	3				
"	4						3	31		
上級	1			7	3					
"	2						3	31		

(3) 地域及び国別分布状況

地域別分布

地 域	国 数	%	人 数	%
ア ジ ア	17	27	403	66.7
中 南 米	17	27	120	19.9
ア フ リ カ	15	23.7	44	7.3
中 近 東	10	15.9	31	5.1
大 洋 州	2	3.2	4	0.7
ヨ ー ロ ッ パ	2	3.2	2	0.3
合 計	63	100 (%)	604	100 (%)

国別分布

アジア (17ヶ国 403人)

国 名	人 数	国 名	人 数
韓 国	61	ビ ル マ	15
中 国	54	ネ パ ー ル	14
タ イ	51	イ ン ド	13
インドネシア	45	ブ ル ネ イ	8
マレーシア	34	バングラデシュ	5
フィリピン	32	香 港	4
スリランカ	26	モ ル ジ ブ	4
パキスタン	19	ブ ー タ ン	2
シンガポール	16		

中近東 (10ヶ国 31人)

国 名	人 数	国 名	人 数
トルコ	9	アラブ首長国連邦	2
エジプト	8	イ ラ ン	1
ヨルダン	3	イ ラ ク	1
シリア	3	クウェート	1
サウジアラビア	2	イ エ メ ン	1

アフリカ (15ヶ国 44人)

国名	人数	国名	人数
ケニア	8	マダガスカル	2
タンザニア	6	シェラレオーネ	1
スーダン	5	アルジェリア	1
ザンビア	5	ジンバブエ	1
ナイジェリア	4	エチオピア	1
ガーナ	4	ウガンダ	1
リベリア	3	モロッコ	1

中南米 (17ヶ国 120人)

国名	人数	国名	人数
ブラジル	30	コロンビア	3
メキシコ	15	ホンジュラス	3
チリ	13	ベネズエラ	2
パラグアイ	12	エクアドル	2
ポリビア	9	コスタリカ	1
アルゼンチン	8	グアテマラ	1
ウルグアイ	7	ドミニカ	1
ペルー	7	サルバドル	1
パナマ	5		

大洋州 (2ヶ国 4人)

国名	人数
バプアニューギニア	3
キリバス	1

ヨーロッパ (2ヶ国 2人)

国名	人数
ギリシャ	1
ユーゴスラビア	1

(4) レクリエーション

研修員の滞日生活をより充実させ、日本に対する理解を深める一助として、また技術研修の習得を容易にする潤滑油としてレクリエーション活動の果す役割は極めて大きな意味を持つと思われる。

TICがレクリエーション活動を本格的に実施したのは、60年8月1日からであるが、まず常時在館する研修員が300人～400人にも達するこれまでのセンターで最大規模のものであることと、新しい地域に設立されて、初めての年であり地域住民との交流を深める必要性もあるという点がプログラム作成にあたって特に考慮された。

まず、レクリエーション活動を大きくスポーツ、文化、娯楽、懇親会・交流会等に分けて、次のように実施した。

なお、従来のプログラムは主催者側が全てお膳立てし、研修員はただ参加する方式であったが、最近の傾向として研修員自身の選択の余地のあるプログラムに人気があることを考慮し、若干研修員の主体性を尊重した内容を取り入れた。

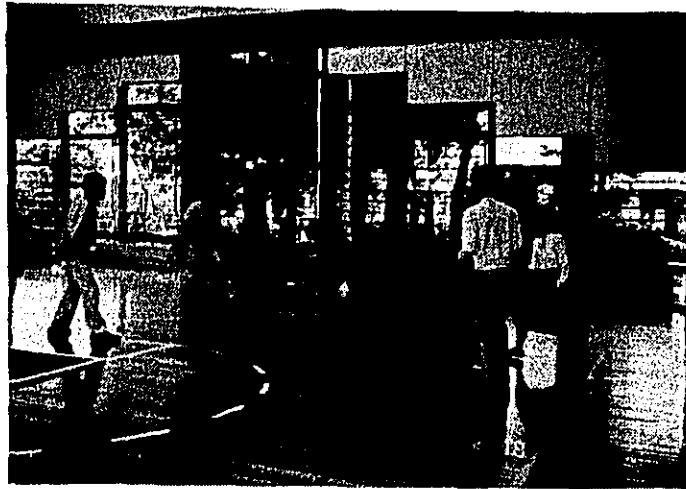
イ. スポーツ

(i) センター体育館の利用

下記のように種目別に利用日を定め、多種多岐に亘る研修員の要望にこたえた。

日	卓球、バドミントン
月	” ”
火	バレーボール
水	卓球、バドミントン
木	” ”
金	バレーボール
土	卓球、バドミントン

なおボール等必要品は貸出しを行っている。



(ii) ドウ・スポーツ・プラザ施設の利用

TICでは実施できない種目のスポーツ施設を有するドウ・スポーツ・プラザと契約を交わし、毎月一定枚数の利用券を希望者に配布し、研修員が期間内の好きな時に好きなスポーツを選択出来るようにした。

(iii) 日本武道観賞会

60年10月11日（金）日本古来の武術を研修員に広く紹介し、日本の伝統的武道の理解が一層深まるよう2時間に亘り模範演技を披露した。

参加人数は250名であった。

<演技内容>

<演技者>

- | | | |
|-------|----------|-----------|
| ① 空手 | ——日本空手協会 | 香川政夫4段他4名 |
| ② 柔道 | ——代々木警察署 | 島川裕6段他7名 |
| ③ 居合術 | ——TIC職員 | 高荷義信5段 |
| ④ 剣道 | ——消防学校 | 秋山隆6段他7名 |

ロ 文 化

(i) 日本芸能観賞会

60年11月15日（金）日本の古典芸能の紹介として次のようなプログラムを組んだ。参加者350名は、大衆芸能の紙切り芸をはじめとして、十分に日本芸能を堪能した。

<プログラム> <出演者>

- ① 箏演奏——斯音会一門
- ② 曲 芸——鏡味小次郎
- ③ 紙 切 り——三遊亭小円雀
- ④ 日本舞踊——旭流一門



(ii) アート・スクール

61年2月28日(金) 研修員に手作りの日本文化紹介の一環として、短時間で楽しめる折り紙とちぎり絵の教室をブリーフィング・ルームで開いた。

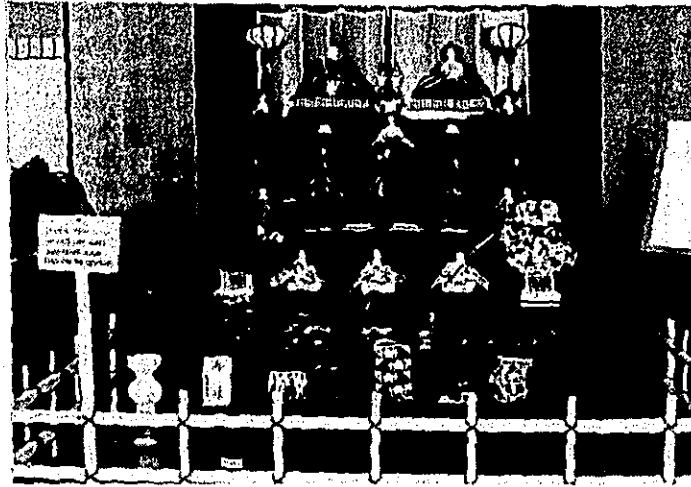
折り紙は、日本折り紙協会、ちぎり絵は日本ちぎり絵スクールの講師の指導の下に、一同楽しみながら日本の思い出を手作りした。

参加者は約100名であった。



(iii) ひな人形七段飾りの展示

日本の伝統文化紹介の一環として3月3日ひな祭りに際し、ひな人形七段飾りを2月中旬より約1ヶ月間食堂に展示した。



ハ 娛 楽

(i) ビデオ・シアターの上映

毎週土曜日夜、ブリーフィング・ルームで娯楽性の高い外国映画を上映した。入場可能人数100名のところ、入場者数は平均70名であった。人気の高い映画は「007シリーズ」、「レイダース」、「スーパーマン」等、アクション物に集中した。

(ii) ロード・ショー映画チケットの配布

毎月、一定枚数のロード・ショー映画数本のチケットを用意し希望者に配布した。研修員は自分の見たい映画を好きな時に見に行くことが出来るようにした。

研修員に人気のあった映画は「女と男の名誉」、「コマンダー」、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」等であった。

(iii) ビデオテープ等の貸出し

希望者に対し洋画等のビデオテープ及びミュージック関係用品（ミュージックテープ、コンパクトディスク）の貸出しを行ない、TIC施設（オーディオルーム、ビデオルーム）で各自楽しめるようにした。

人気のあるビデオ・テープは「007シリーズ」、「チャップリン物」、ミュージック関係は、マイケル・ジャクソン、マドンナ等のポピュラー・ミュージック及び五輪真弓を代表とした日本のニュー・ミュージックであった。

(iv) ディスコ・パーティー

61年3月14日(金) TICが住宅地区に立地していることから騒音問題等で実施を控えていたが研修員からの強い要望もあり食堂の一部を利用して試行した。当初危惧された問題もなく330名の参加者があり大変好評であった。

ニ 懇親会・交流会

(i) 地域住民との懇親会

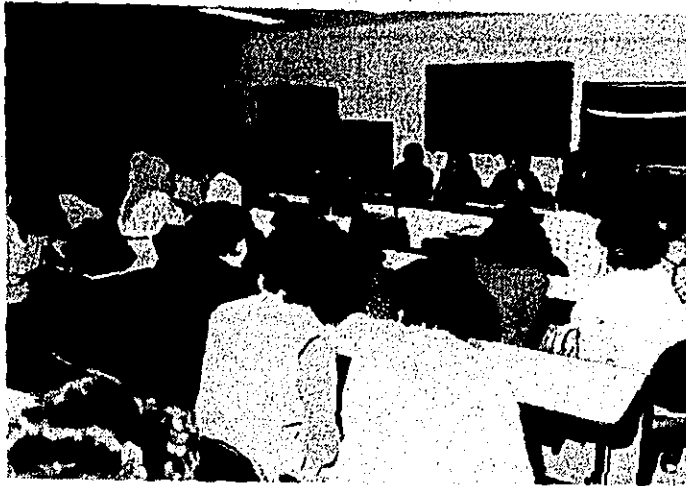
60年11月29日(金) 地域住民をTICに招いて研修員との交流を深めるとともに地域住民の国際協力に対する理解を深めることを目的として開催した。研修員を含め参加者は620名を教え歓談及び相互の民族芸能等アトラクションの紹介を通じ、当初の目的は達成されたと思われる。

(ii) 新年パーティー

61年1月10日(金) TICが初めての新年を迎えるにあたり研修員とTICが日頃協力を得ている関係者を招待し、新しい年の門出を祝うとともに研修員間及び日本人関係者との相互交流を図った。参加者は研修員を含め350名であった。

(iii) 女性研修員との懇談会

61年3月7日(金) TICがオープンして半年経過しセンターの運営も軌道にのり始めたところ、兼ねてより計画していた在館者の日常生活の把握、要望の聴取及び職員との親睦を兼ねて懇談会を開催した。会合の目的から小規模の集りとする事とし、第1回目は在館女性研修員を対象に32名の参加を得た。大方からは施設と運営に満足し快適な生活であり感謝の意が述べられた。要望としては観光、日本文化等に関する情報提供、ホームステイの手配、日本料理講習会開催等が出され、今後TICの事業をすすめていくうえで大変参考となった。



ホ TICインフォメーション・リーフの発行

在京研修員を対象に、日本の習慣、行事等研修員の滞日生活に有益と思われる情報を提供することを目的として毎月1回発行した。

発行部数は在京研修員数により月毎に変動があり800～1,500部であった。

へ その他

筑波科学博入場券の配布

60年度4月より旧TICで実施していたものをTICでも引き継いで9月15日迄の開催中、希望者に1人につき1枚限りとして配布した。

なお、TICが企画した行事の他に、外部団体より招待され、当センターの研修員が参加した行事は次のとおりである。

外部団体招待による行事

	実施日時	実施場所	主催者	参加研修員数
1. 西原地区総合大運動会	60. 10. 13 (日) 9:00~15:30	西原小学校	西原地区体育会&青少年対策西原地区委員会	30名
2. 渋谷国際ランチョン・パーティー	60. 12. 1 (日) 10:30~17:00	区立初台青年館	渋谷区国際青年の年推進協議会&渋谷区教育委員会	若干名
3. 国際親善の会クリスマス・パーティー	60. 12. 21 (土) 18:00~21:00	私学会館	国際親善の会	24名
4. SRID婦人クラブによるホーム・ビジット	①60. 12. 22 (日) 12:00~15:00	奈須様方 (小金井市)	SRID婦人クラブ・メンバー	3名
	②61. 1. 1 (水) 15:00~	神田様宅 (新宿区)	"	5名
	③61. 1. 2 (木) 16:00~20:00	三上様宅 (南青山)	"	6名
	④61. 1. 19 (日) 15:00~	蓮見様宅 (町田市)	"	6名
	⑤61. 1. 25 (土) 16:00~21:00	江崎様宅 (深沢)	"	8名
5. 着物ショー	61. 2. 8 (土) 13:30~15:30	渋谷区消費者センター	渋谷区国際交流婦人の会	30名
6. 幡ヶ谷・卓球大会	61. 2. 9 (日) 13:00~17:30	渋谷区スポーツ・センター	幡ヶ谷スポーツ	7名
7. 銀座ライオンズ・クラブ婦人の夕べ	61. 3. 26 (水) 17:30~20:00	銀座東急ホテル	銀座ライオンズ・クラブ	女性研修員 18名

(5) 健康管理

気候風土、言語、習慣等の異なる日本に滞在する研修員が快適な生活を送り、また実りある技術研修を達成できるように、環境整備を図ることが重要である。かかる認識のもとに、TICでは診療室を次のとおり開設するとともに、渋谷区医師会ならびに同歯科医師会の協力を得て近隣の病院及び開業医との連携による診

療室の支援体制を確立した。

診療室は研修員の健康上のカウンセリングを重視し、病状を適確に判断し、予防措置および応急措置を施し、また、本格的な検査、治療が必要と思われる場合には、近隣の医療機関を紹介することを主な役割としている。

囑託医師の派遣を含む診療室の運営については東京女子医科大学及び国立病院医療センターの協力により円滑な実施をはかった。



診療室運営は下記のとおり。

診療日及び時間 ①診療日 月曜～土曜（祝祭日は休診）

②診療時間 16時30分～21時

※ 但し、囑託医師の勤務は18時～21時

従って16時30分～18時までは看護婦による応急措置
及び診察受付時間とする。

業務内容 ①研修員の一般的な健康相談

②研修員の傷病に対する診察及び応急措置

③病状により適当な医療施設への紹介

（渋谷区医師及び歯科医師会より紹介のあった最寄りの開業医

・病院—病状によっては東京女子医大病院、あるいは国立病院医療センター等）

かかる診療室を含む医療体制の整備により、健康相談を通じ研修員の心身の不

安の解消に大いに貢献したと思われる。

主な疾患としては、気候や生活環境の変化に起因すると思われる風邪、皮膚疾患、便秘等であり、これらの諸疾患は来日後、日本の生活に順応する過程において多く見受けられる。

診療室利用者数（909人）に比較して、外部医療機関の紹介件数が163人と著しく低くなっており診療室が効果的に機能していることが伺われる。

診療室の利用状況および外部医療機関紹介件数は資料の通りである。

診 療 室 利 用 状 況 表 60.9.17～61.3.31

科名 月	内	外	皮膚	整形	泌尿	眼	耳鼻	婦人	歯	人数 合計	稼働 日数	平均
9	50	2	9	7	2				3	73	11	6.63
	5	4	3	2	2	1			1	18		
10	110	4(1)	24	11	1	4	4	3	4	165(1)	26	6.35
	6	3	11	5	2	6	3	1	3	40		
11	115	8	13	10	1			2(1)	6	155(1)	24	6.46
	8	3	6	4	1	2	1	3	5	33		
12	85	1	4	9		1	1	1(1)	2	104(1)	23	4.52
	12	3	2	1	1		2		5	26		
1	93(1)	6	17	9		5	5	1	7	143(1)	23	6.21
	5	1	4	1	1	1	2	1	1	17		
2	90	12	21	15	3	3	1		4	149	23	6.47
	3	4	5		2	2			2	18		
3	65	9	23	10	1	1	1		10	120	25	4.8
	3	1		1		1	1		4	11		
合計	608(1)	42(1)	111	71	8	14	12	7(2)	36	909(4)	155	5.87
	42	19	31	14	9	13	9	5	21	163		

注) 下段の数字は外部医療機関紹介者数

()内数字は入院を要した者

地域別診療室利用状況表

地域 月	地域別患者数					
	アジア	中近東	アフリカ	中南米	オセアニア	計
9	39	9	15	10		73
10	83	34	20	25	3	165
11	83	13	21	38		155
12	65	8	11	18	2	104
1	94	18	13	18		143
2	87	19	18	23	2	149
3	78	15	12	13	2	120
合計	529	116	110	145	9	909

地域別患者数

地域 科 月	了					中					近					東					了					カ									
	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計
	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計			
9	23	7	5	1		3	39	9	6	1	1	1			9	13	1	1					9	13	1	1					15				
10	52	1	18	3	3	2	83	10	25		5	2		1	34	10	15	2	1	1			20	15	2	1	1				20				
11	63	4	8	4		1	83	11	9		2	1		1	13	11	16	2	1	2			21	16	2	1	2				21				
12	57		2	4		1	65	12	4	1	3				8	12	9		1	1			11	9		1	1				11				
1	58	5	13	4		2	94	1	12	1	5				18	1	10	1					13	10	1		2				13				
2	49	7	13	13	1		87	2	14	2	1	1		1	19	2	13	2	1	1			18	13	2	1	1				18				
3	43	4	17	7	1		78	3	10	3	1			1	15	3	3	1	5	1			12	3	1	5	1				12				
計	345	21	78	40	3	9	529	計	80	8	3	17	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	116	計	79	4	12	6	1	3	2	3	110	

科別・地域別患者数

地域 科 月	中					南					米					オ					セ					了					ニ					了					他				
	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計	皮		整		計					
	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計	内	外	整	眼	耳	婦	齒	計					
9	8		1	1			10	9							9																														
10	16	2	3	2		1	25	10	2	1				3	10																														
11	27	2	4	2		3	38	11						11																															
12	14		1	1		2	18	12	1	1				2	12																														
1	13		3				18	1		1				1																															
2	12	3	5	1	1		23	2	2					2	2																														
3	7	1	1	1		2	13	3	2					2	3	2																													
計	97	8	17	8	2	1	145	計	7	1	1			9	計																														

総数 909 名

(6) 施設の管理・運営業務

昭和60年度は開所年度にあたり、開所式（6月26日）の実施およびその後の東京インターナショナルセンター（市カ谷）、都内ホテルからの研修員の引越しもあり、あわただしい年となったが、施設の健全な運営・保守・管理に万全を期すことができた。

施設の目的である研修・宿泊施設の利用については、本部研修事業部と協議しつつ行ってきたが、年度途中から研修員の利用に供した経緯もあり、より効率的な計画については昭和61年度における課題となった。

昭和60年度における実績は次のとおり。

イ. 宿泊施設の利用

昭和60年7月13日（当初計画）から研修員の利用に供し、その利用率は80.3%（当初計画79.2%）延92,804人日（当初計画95,712人日）であり、利用率は当初計画をやや上回る数字を達成した。

月別利用実績表

区分	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延利用 人日	5,176	10,685	11,139	13,077	11,795	8,996	9,528	11,628	10,780	92,804
利用率 (%)	61.7	78.1	84.2	95.6	89.1	65.8	69.6	94.1	78.8	80.3

備考 1. 室数441室（シングルルーム421室 ツインルーム20室）

2. 昭和60年度の利用日数は262日。

主な研修員は次の通りである。

ビルママンダレー 医科大学長他2名（医療教育視察高級研修員）

ヴェトナムチャーライ病院長他1名

地域別・国別研修員延利用人数実績表

研		修		員		延		利		用		人		数		実		績		表	
(アジア地域)		(中近東地域)		(アフリカ地域)		(中南米地域)		(オセアニア地域)		(その他の地域)		(全地域)									
国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数
バングラデシュ	48	アルジェリア	4	ペナン		アルゼンチン	49	フィジー	10	サイプラス		日本	227								
ブータン	6	バハレーン	3	ボツワナ		バハマ	1	ナウル		ボリショ	3										
ビルマ	79	エジプト	92	ブルンジ		バルバドス	1	ニウエ		ポルトガル											
中国	270	イラン	33	カメルーン	3	ボリヴィア	32	バプアニューギニア	26	ユーゴスラヴィア	12										
インド	54	イラク	28	カーボベルデ	1	ブラジル	130	トンガ	5	アメリカ	1										
インドネシア	268	ジョルダン	22	中央アフリカ	4	チリ	40	西サモア	2	イギリス	1										
大韓民国	97	クウェイト	9	チャード		コロンビア	31	トリバサ	2	ハンガリー	5										
マレーシア	264	レバノン		コモロ	2	コスタリカ	12	トウバル	1												
モルディヴ	10	リビア		コンゴ		キューバ	2	ソロモン諸島	6												
モンゴル	2	モロッコ	7	シブチ		ドミニカ		米領太平洋諸島													
ネパール	49	オマーン	5	赤道ギニア		ドミニカ共和国	16	ミクロネシア	1												
パキスタン	68	カタール		エチオピア	15	エクアドル	6	ヴァヌアツ													
フィリピン	192	サウジアラビア	26	ガボン	1	エルサルバドル	7	マリワナ諸島													
シンガポール	79	スーダン	23	ガンビア	4	グレナダ		マーシャル													
スリランカ	74	シリア	6	ガーナ	23	グアテマラ	9	パラオ													
タイ	288	チュニジア	14	ギニア	7	ガイアナ	3	クック諸島	3												
ヴェトナム	6	トルコ	45	ギニア・ビサウ		ハイチ	2	オーストラリア	3												
ブルネイ	11	イスラエル	1	象牙海岸	4	ホンジュラス	15														
香港	15	剛イエメン		ケニア	51	ジャマイカ	2														
		アラブ首長国連邦	6	レソト		メキシコ	88														
				リベリア	8	ニカラグア	3														
				マダガスカル	6	パナマ	35														
				マラウイ	10	パラグアイ	46														
				マリ	7	ペルー	65														
				モリタニア	1	プエルトリコ															
				モリシャス	1	スリナム	2														
				モザンビーク		セント・ルシア	1														
				ニジェール		セント・ヴィンセント	3														
				ナイジェリア	18	トリニダード・トボ															
				ルワンダ	7	ウルグアイ	4														
				セネガル	12	ヴェネズエラ	13														
				セイシユル	2																
				シエラ・レオネ	10																
				ソマリア	4																
				スワジランド	1																
				タンザニア	41																
				トーゴ																	
				ウガンダ	1																
				ブルキナ・ファソ	4																
				ザイール	6																
				ザンビア	23																
				ジンバブエ	3																
合計	1880	合計	324	合計	280	合計	618	合計	68	合計	22	合計	227								

センターを主たる宿泊施設とした集団（特設）コース一覧表

	集 団 コ ー ス 名		集 団 コ ー ス 名
1	水路測量	32	上級租税セミナー
2	上水道施設	33	船員教育行政
3	生活改善普及	34	港湾セミナー
4	農地水資源開	35	鉄道電化
5	鉄道車両	36	開発エコノミスト（一般）
6	無線通信技術（I）	37	婦人関係行政セミナー
7	ラジオ放送技術	38	総合都市交通施設計画
8	テレビジョン放送技術（I）	39	通信網計画設計
9	農林統計	40	借入金統セミナー
10	河川及びダム工学	41	国土開発セミナー
11	麻薬犯罪取締セミナー	42	土質及び基礎工学
12	選鉱製錬	43	住宅建設
13	教育テレビジョン番組（I）	44	データ通信技術
14	デジタル交換技術（II）	45	海洋物理調査
15	都市計画	46	早期胃ガン診断
16	電波監視	47	認証検査制度
17	橋梁工学	48	建築技術
18	がん対策	49	国際データ通信技術
19	航路標識	50	国際電話交換技術
20	衛星通信技術（上級）	51	鉄道信号
21	国際テレックス通信技術	52	環境行政
22	精神薄弱福祉	53	テレビジョン放送技術（II）
23	森林造成技術者	54	教育テレビジョン番組（II）
24	雇用開発セミナー	55	原子力基礎実験
25	国家行政	56	寄生虫予防指導者セミナー
26	気象学	57	石油化学工業
27	腎不全対策	58	包装技術
28	ADP（自動データ処理）	59	郵政幹部セミナー
29	一般統計	60	中堅経営管理
30	労働安全衛生行政セミナー		
31	ハイウェーセミナー		

ロ. 教室の利用

教室の利用は、主として日本語研修（集中コース〔昼間〕および一般コース〔夜間〕）およびセミナー等の専門分野の研修に分かれるが、研修員受入のピークを迎えた10月から11月初旬にかけては、これらの研修の実施にあたり一部のものはセンターの利用が困難となった。

しかし、上記の期間を除いては計画どおり利用され、整備された教室と充実した視聴覚機器の効果的な利用をもって、研修内容の向上に大きく貢献することとなった。

月別利用実績表

区 分	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
延利用可能室数	221	374	374	374	357	340	323	323	340	3,026	
延利用室数 実 績	セミナー等	33	105	147	224	153	69	95	135	63	1,024
	日 本 語	56	178	154	132	122	127	120	142	211	1,242
	計	89	283	301	356	275	196	215	277	274	2,266
利 用 率 (%)	40.3	75.7	80.5	95.2	77.1	57.7	66.6	85.8	80.6	74.9	

- 備考 1. 教室数は17室。
 2. 日本語（夜間）の利用は、実績に含めず。
 3. 月別の延利用可能室数の算出は次による。
 17室×当該月の日数（土、日、祭日は除く。）

なお、日本語研修および専門分野の研修以外の主なセミナーとしてアセアンと太平洋人造り協力合同検討会が12月1日から12月6日までセミナーNo.17で行なわれた。（参加者アセアン6カ国、パプアニューギニア、フィジー、アメリカ、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、日本 計30名）

セミナー等を実施（1週間以上）した研修コース一覧表

No	コース名	No	コース名
1	中国経営管理	26	総合都市交通施設
2	鉄道車輛	27	婦人関係行政セミナー
3	麻薬犯罪取締セミナー	28	国土開発
4	港湾工学	29	土質及び基礎工学
5	農林統計	30	エネルギー（メキシコ）
6	都市計画	31	住宅建設
7	橋梁工学	32	郵便貯金幹部セミナー
8	電波監視	33	精神薄弱福祉
9	航路標識	34	認証検査制度
10	空港セミナー	35	建築技術
11	工業所有権	36	早期胃がん診断
12	森林造成	37	コンテナ埠頭制備
13	生産性向上（シンガポール）	38	行政情報
14	雇用開発セミナー	39	環境行政
15	国家行政	40	中国科学技術管理
16	輸出入食品検査	41	自動車技術行政
17	環境技術	42	鉄道信号
18	沿海鉱物資源	43	石油化学
19	生産性向上（イラク）	44	特許審査
20	貿易振興セミナー	45	包装技術
21	労働安全衛生行政	46	都市整備
22	ハイウェーセミナー	47	郵政幹部セミナー
23	下水道技術	48	マレーシア東方政策
24	港湾セミナー		
25	鉄道電化		

ハ、建物等の管理委託

フロント、電話交換、電気機械設備、守衛、清掃および食堂各部門の管理、運營業務については、外部のビル管理の専門業者に委託したが、センター職員の指導のもと研修員への配慮、特により良い生活環境の維持と安全を心がけた結果、円滑に遂行された。

特に食堂部門については、常時70カ国以上、400人に近い研修員が在館することを念頭におき経営されたことと、数回にわたる食堂委員会の開催もあり、問題なく運営された。

部門別委託一覧表

部門	契約人数	配置		備考
		昼間	宿直	
統括	2	2		総括主任(1)
フロント	18	10	3	主任(1), 副主任(1)
電話交換	3	3		8:00~21:00 シフト制 日・祭日はフロントにおいて実施
電機	8	5	2	電気主任(1), 機械主任(1)
守衛	12	6	4	守衛長(1), 副守衛長(1)
清掃	契約人数なし	(40余名)		主任(1), 副主任(1) 8:00~17:00 シフト制
食堂	同上	(30余名)		主任(1), 料理長(1), ホール主任(1) 6:00~21:00 シフト制

(7) 主たる催し

イ. アセアン太平洋人造り協力合同検討会

太平洋を囲む、アセアン南太平洋諸国と先進国が21世紀に向けたアセアン、南太平洋諸国の発展と相互協力に不可欠な人造り並びに人と情報の交流を促進するためアセアン6カ国（政策実動者及び学識経験者各1名）PNG、フィジー、先進諸国（米、豪、加、ニュージーランド及び日本）30名のメンバーで12月2日から12月7日までの間上記検討会が開催された。

ロ. 研修課長会議

国内研修センターの研修課長会議が11月7日開催され60年度受入実施状況研

修事業評価、センターネットワークシステムに関する検討状況中間報告及び意見交換が行なわれた。

(8) 主たる便宜供与

主たる便宜供与は次の通りである。

年月日	業務	来館者
60. 4. 24	視察	渋谷区区会議員（都市環境特別委員会メンバー12名）
4. 25	”	高級研修員（タイ国DTEC局次長 mr. Kasemn）
7. 19	”	北九州市長他3名
7.31-8.1	”	昭和60年度高校生懸賞作文入賞者11名
8. 20	国際理解研修会	群馬県多野ユネスコ協会 県内小・中学児童100名
8. 22	青少年国際バス	高崎ユネスコ協会 小・中学児童55名
9. 13	視察	高級研修員（フィリピン国 NEDA次官 mr. Hamon B Cardenas）
9. 20	”	アセアン各国大使ほか（在京大使 インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、ビルマ、フィジー、パプアニューギニア）外務省、後藤アジア局長、藤田経協局長他
10. 3	”	フィジー大蔵次官（mr. Kubuanbola）
10. 22	”	東西アジア記者研修参加者（インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、パキスタン、フィジー）
10. 28	”	高級研修員（スリランカ国マハヴェリ開発庁総裁他1名）
11. 25	”	高級研修員（ビルマ国マンダレー医科大学長）
12. 17	”	ガーナ外務省 OAU局長（mr. Jacob Botwe Wicmoi）
61. 1. 11	”	北九州国際研修協会理事長（新日鉄顧問）
3. 17	”	高級研修員（タイ国DTEC局次長 mr. Pracha haowa S LP）

(9) 昭和60年度収支予算実績

(千円)

科 目	金 額	備 考
(収 入)	(313,071)	
(款) 施設利用収入	292,579	※内訳は下図参照
(款) 雑 収 入	787	
(款) 運営補助収入	19,705	
(支 出)	(827,481)	
(款) 海外技術協力事業費	454,735	
(款) 管 理 費	59,675	
(款) 施設運営日	313,071	

※ 施設利用収入の内訳

